

2012 (H24) 2/14 読売

シラスウナギ 県内不漁

暗闇で大潮となる新月の日は豊漁となることが多いが、今シーズンは好転の兆しを見せず、1キ当たり

2008年度の漁獲量は約1400キだったが、09年度は約550キに激減。10年度も約420キと年連続で低迷している。

県水産政策課によると、8日現在の漁獲量は186キで、昨年同時期の307キを大きく下回っている。

県内のシラスウナギ漁は、高橋市の大淀川や延岡市の北川など、約20河川の河口で毎年12月～3月中旬に行われる。

ウナギの稚魚で、国内の河口などで採取されるシラスウナギの今シーズンの県内の漁獲量が、不漁だった昨年同時期の約6割にとどまっている。全国的にも不漁が続いているが、原因は不明で、今夏のはけ焼きなどの餌上げが懸念されている。

(尾谷謙一郎)

原因不明、関係者ら危機感

水産庁によると、他の九州各県や四国などでも同様の不漁が続いているが、「明確な理由は分からない」という。同行は毎日ウナギの生態に詳しい研究者と意見交換し、対策を協議する。

県内の10年度の養殖ウナギの生産量は3415キで、鹿児島、愛知に次いで全国3位。シラスウナギの不漁が続けば、養殖業者の経営に大きな打撃を与えるため、養殖業者は危機感を募らせている。

の取引価格は昨年度の最高値となった約90万円の2倍以上の200万円超で推移している。新富町で40年以上にわたって、ウナギの養殖業を営む中村泰生さん(76)は「これほどシラスが取れないのは初めて。ウナギは庶民も楽しめる味だったのに、このままでは超高級魚になってしまう」と話す。

漁獲量 昨年同時期の6割